

## システム作って仕組みつからず

クリスマスに良書「ちゃいろにわたりのちゃーぼう」はいかが

TRONの提唱者坂村健さんの話を聞く機会があった。曰く「高速道路の料金所のETCシステムは、中途半端である。ズルする人がいないように一台一台バーを開け閉めして、出入りをコントロールするようになっている。しかし、そのための機械を設置するのに、いったいどれだけのお金を投入しているのか？すべての車にETCを安く装着できるような仕組みを作れば、機器の大量生産につながり生産コストも大幅に下がる。そうすると、ますます装着する人が増え、無駄なゲートも設置しなくて済むではないか。」

ETCのようにカード会社のカードを作らなくても、車でもなんでも、とにかくユニークな番号のICタグさえ付いていればよい。たとえば、歩道のどこかにICタグを埋め込み、目の不自由な人が持つ白杖とかにICタグの情報を読み取る機械を装着しておく。ICタグ自体は、その位置情報を持っている必要はない。タグの位置から何メートル先に信号があり、青信号の長さは何秒か、などといった情報も持つ必要はない。ユニークな番号に符合するそうした情報をどこか別の場所のセンターで管理しておけばよい。そうすれば、情報更新も容易だ。使えなくなったICタグの番号は、永久欠番にすればよい。

賢さは、仕組みを作るところで差が出る。システムではなく、仕組みである。住民基本台帳カードのシステムは、きっと多額の予算を使って構築したのだろうが、あまり機能しているとは思えない。その証拠に、今まで住民基本台帳カードを持っている人に出会ったことがない。今も毎日生まれてくる赤ちゃんに、誰かがユニークな番号を割りつける作業をしているのだろうか？年金記録のように漏れたり改ざんされたりしていないだろうか？かく言う私も、実は自分の住民基本台帳番号を知らない。昔郵送で知らせてきたが、女房が紛失しないようにとパソコンのどこかに書き込んだまま行方不明になっている。自分が死んだら、この番号は永久欠番になるのだろうか。心配は尽きない。しかし、せっかく国民全員にユニークな番号がついているのだから、歩道上のICタグのような発想をすれば、いろんなことができそうだ。プライバシーやセキュリティの問題から、反対運動したり裁判したりする動きがあったが、それはそれとして、とにかく今のままでは、住民基本台帳カードは生かされない。使い道がわからないから。システムはあるが使う仕組みがないのだ。このシステムは、国家的な不良在庫だ。

不良在庫と言えば、私が2年前に作った絵本「ちゃいろにわたりのちゃーぼう」や、障害者の仕事づくりのために商品開発した「笑薬」も、不良在庫になってしまっている。振り返ってみると、絵本や新商品を作ること自体が楽しくて、別にそれで儲けようとか、世に広めようとか、そんなことは本気で考えていなかったかもしれない。恐ろしいことだが、住民基本台帳カードも実はその程度のことだったのではないかと世の中はそんなものであふれている・・・。

それにしても今般の定額給付金の話。これは、まともなんでしょうか？この配布コストはいったい何億円になるか？高額所得者に受け取り辞退を促すのは、ETCにバーがあるためにかえって料金所が渋滞するようなことになりはしないか？ホームレスにもお金がちゃんと渡るのかも心配。消費期限付きの地域振興券の方が、仕組みとしては、まだ良かったように思う。そもそも、兆の単位のお金の使い方としては、やはり間違ってるんでしょう、これは。